

第2学年2組 生活科学習指導案

指導者 2年2組 尾前 絵美

1 単元 ぐんぐん そだて わたしの 野さい

2 指導観

○ 本学級の子どもは、1年生のときに自分達で選んだ花の種を植木鉢で育てたり、他の花を学年園で育てたりする活動をした。そこで「お花を育てたい」「花を咲かせたい」という思いや、友達と共に自分が育てている花との関わりを深め、「お世話を頑張ったから花が咲いた」「花を育てることが楽しい」など、自分自身への気付きを高めていった。2年生となり、本単元に入る前に事前アンケートをとったところ、35人中10人程度が家で野菜を育てた経験があった。しかし、主に世話をしているのは親で、野菜栽培は身近なものではないことが伺えた。

このような児童の実態から、子どもそれぞれが自分で選んだ野菜を育て、自分の野菜の世話の仕方と友達の野菜の世話の仕方と比較する活動などを通して、1年生の時よりも野菜を自分との関わりで捉え、よりよい生活に向けて野菜への思いや願いを実現しようとすることを生かした思考力・判断力・表現力を高めていきたいと考えた。

○ 本単元では、学習指導要領内容(7)「動植物の飼育・栽培」を受けて設定した。本単元は、「自分の鉢植えで一人一苗の野菜や学年園で他の野菜を継続的に栽培する活動を通して、これまでの経験を基に、植物の変化や成長の様子に関心をもって働きかけ、植物が生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、生き物に親しみをもち、大切にしようとする事ができること」をねらいとしている。

3 単元の目標

知識・技能の基礎	○ 植物の変化や成長の様子や、育てている野菜が生命をもっていることに気付く。 ○ 野菜を育てることを通して、自分や友達が上手に世話ができていくことに気付く。
思考・判断表現等の基礎	○ 野菜の育て方について自分なりに考えたり、人に聞いたり、本で調べたりして、よりよい育て方を工夫することができる。 ○ 野菜を育てることや成長について気付いたことなどについて、自分の好きな方法で表現することができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 野菜の育て方を調べたり、人に聞いたりしながら、大切に育てようとしている。 ○ 野菜の変化や成長の様子に関心を持ち、継続的に世話をしようとする。

4 指導に当たっては、次の手立てをとる。

【着眼1】 子どもが自ら思いや願いをもって動き出す対象との出会いの場の設定の工夫

単元の導入では、子どもが「自分で野菜を育てたい。」「育てた野菜を食べたい。」という思いや願いを持つことができるように、きゅうりやトマトなどの野菜を提示し、自分で野菜の苗を選び、名前を付けるなどの活動を設定する。さらに「もっと大きくしたい。」「おいしい野菜にしたい。」という思いや願いを持つことができるように、今までお世話してきた写真や今まで起こった出来事などを掲示し、野菜の苗や野菜との出会いの場に着目した指導計画や評価計画を立てる。(※指導計画・評価計画参照)

【着眼2】 見方・考え方を生かす思考活動の工夫

① 比較、分類、関連づけ、視点移動などの分析思考を働かせる活動の工夫

野菜のお世話の仕方やその成長の様子を詳しく捉えるために、資料となる図鑑などを常に見える位置に設置したり、小グループでの野菜の成長や世話の仕方の比べ合い活動を設定したりする。活動を進める中で自分の野菜への関わりを随時見直すことができるように、同じ野菜を育てているグループや違う野菜を育てているグループなど、意図的に小グループ編成をする。小グループでの活動の際には、思考を可視化・操作化しながら比べることができるようにワークシートやホワイトボード、実物や写真などのICTを活用する。

② 工夫、試行、見通し、予測などの創造的思考を働かせる活動の工夫

子どもたちが「自分の野菜を大きく育てたいな。」「野菜をたくさん採りたいな」という自分

の思いや願いを実現することができるように、下記のようなコーナーを設定する。

コーナー	子どもが自由に活用するもの
調査コーナー	これまでの活動写真、各野菜の図鑑など
道具コーナー	じょうろ、スコップ、肥料、ネット、支柱、紐、名札など
作業コーナー	シート、土など

また、「昨日より大きくなったかな。」「花はどんな形かな。」という思いや願いをもって、継続してお世話ができるように「やさいのけんこうかんさつ」を取り入れ、野菜と関わる活動を常時活動として繰り返す。世話をする中で困ったことや疑問に思ったことが出てきたときは、試行錯誤しながら自分で考え、お世話できるように、図鑑などで調べたり、友達と話し合ったり、上級生に聞いたりすることを促す。

【着眼3】 見方・考え方を生かす教師の支援の工夫

子ども一人一人が本単元の目標を達成できるように、野菜の苗やその成長と関わる子どもの様子を具体的にとらえ、一人一人の思いや願いを実現していく過程を丁寧に見取る。グループ数が多い場合でも子どもの行動や思考をすぐに見取ることができるように、ワークシートを挟むファイルの色を野菜の種類で色分けをする。また、振り返りの際は、選んだカードで子どもの思考がすぐに見取れるように、3種類の振り返りシート（ \heartsuit 、 $!$ 、 $?$ ）を活用する。活動時間以外にも、子どもと対話し、子どもの思いや気づきを引き出していく。子どもとの対話や振り返りカード等で見取ったことから子どものつまずきなどを想定し、「支援計画表」を作成しておく。支援計画表には、つまずいている児童の実態やそれらの解決につながりそうな、友達のよい考えに着目し、書く内容を絞り、焦点化した支援表を作成する。

5 指導計画・評価計画（全8時間）

主な学習活動	【評価計画】○指導上の留意点 ※見方・考え方を生かした学習活動の工夫
<p>1 野さいをそだてよう。② (1) 野菜を育てる計画を立て、栽培する野菜を決める。①</p> <p>(2) 苗を植える。①</p>	<p>【着眼1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 野菜の実物を提示したり、野菜を育てている人と話したりすることから、野菜作りに関心を持たせる。 ○ 「わたしの〇〇」として育てることができるよう、自分で育てたい野菜の苗を選び、決める活動を設ける。 ○ 自分の苗以外のものや友達の苗に自然と目が向くように、野菜の苗を多種にする。 <p>【主】自分が育てることができる野菜を人に尋ねたり、本で調べたりしている。（行動観察、発言分析）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 土作りをしたり、植える場所を考えたりすることができるように、第1学年での栽培活動を想起させる。 <p>【主】野菜の収穫を楽しみに苗や種を植え、大切にしようとしている。（行動観察、カード分析）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 土づくり・苗の植え方・世話の仕方などについては、教科書や参考文献を成長に合わせて活用し、栽培活動に生かす。 <p>【思・判・表】育てたい野菜に合った植え方や育て方が違うことに気付いている。</p>
<p>2 野さいのせわをつづけよう。③ (1) 野菜を育てる。①（継続活動）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 野菜の成長に対する思いや願いをカードに書いておき、自分の思いを大切にしながら育てることができるようにする。 ○ 継続的に自分の野菜と関わるができるように、世話をした気付いたことや自分の思いなどを「やさいのけんこうかんさつ」に毎日書く時間を設ける。

<p>(2) 野菜のお知らせ会をする。② 【本時2/2】</p>	<p>○ 自分や友達の活動や野菜の様子をわかりやすく伝えることができるように、タブレットを使い、自分で撮影した写真や記録したカードを提示するように指示する。 【思・判断・表】自分の野菜の苗と関わる活動、友達野菜と比べ、伝え合う活動を通して、よりよいお世話の仕方について考え、これからの栽培活動の見通しをもっている。 (発言分析、カード分析)</p> <p>○ 野菜の成長や野菜のお世話の仕方をよりわかりやすく伝えることができるように、これまでのお世話を基に、活動の見通しを持ち、自分の野菜を観察したり、お世話したりする活動を設ける。 【思・判・表】自分の野菜の様子を友達に伝え、植物が生命をもっていることや成長していることを自分のすきな方法で表現している。 (発言分析、カード分析)</p> <p>【着眼2②】</p> <p>○ 試行錯誤しながら、世話をしたり、観察したりできるように、「調査コーナー」や「道具コーナー」「作業コーナー」を設ける。</p> <p>【着眼3】</p> <p>○ 野菜のお世話をしたり、友達と伝え合ったりする際、お世話がうまくいかず困っている子がいたら、解決のヒントを得られるように、支援計画表を基に、他の子と繋いだり、各コーナーへ連れていったりする。</p>
<p>3 野さいのしゅうかくをしよう。①</p>	<p>○ 収穫の喜びを味わえるように、野菜の成長に合わせて収穫する。 ○ 未熟の野菜と熟した野菜とを見分けながら収穫できるように、収穫した子と繋いだり、資料を見るように促したりする。 【知】育ててきた野菜の成長を喜びながら、大切に収穫している。(行動観察、発言分析)</p>
<p>4 野さいのことをまとめよう。② (1) 野菜の成長や自分の世話の仕方を振り、まとめる。①</p>	<p>○ 自分の野菜への思いや成長を自分の好きな方法で表現できるように、今まで書いたワークシートや写真等を見直したり、野菜の成長や自分の世話の仕方について振り返る時間を設けたりする。 【思・判・表】世話を続けてきた野菜と自分との関わりを振り返り、自分なりの方法で表現している。 (発言分析、カード分析)</p> <p>○ 世話ができるようになった自分の成長に気付いている児童を取り上げ、称賛し、全体に広げ、育ててきた野菜の成長とともに、自分や友達も成長してきたことに気付くようにする。</p>
<p>(2) 育てた野菜に手紙を書こう。①</p>	<p>○ 野菜づくりを振り返る中で野菜に生命があることや育てることが上手になった自分に気付くことができるように、「これからも大きくそだってね。」「家族みんなてたべたよ。ありがとう。」などの気持ちを綴った手紙を作成する時間を設ける。</p>

(1) 主眼 「やさいかいぎ」で育てている野菜の特徴やよりよいお世話の仕方を伝え合ったり、「ぐんぐんタイム」で自分の野菜の苗に手を加えたりする活動を通して、自分が育てている野菜に合ったお世話の仕方について考え、これからの栽培活動の見通しをもつことができるようにする。

(2) 準備 観察カード、ホワイトボード、野菜カード、3種類の振り返りカード

(3) 展開

主な学習活動・内容	○ 指導・支援上の留意点 【観点】評価規準（評価方法）
<p>1. 本時のめあてをつかむ。</p> <p>ピーマンの実ができたけど、大きくならないな。なんでだろう。</p> 	<p>○ 前時を振り返り、野菜の成長で困っていることを発表し、本時のめあてへとつなぐ。</p>
<p>（めあて）やさいかいぎをひらいて やさいがよるこぶように おせわのしかたを 見なおそう。</p>	
<p>2. 「やさいかいぎ」で、自分の野菜のことをグループの友達と伝え合ったり、比べたりする。</p> <p>肥料をあげたけれど、実が大きくならないのはなぜだろう。</p> <p>ぼくのミニトマトは、肥料をあげたけど、ぐんぐんせいこゆしているよ。</p> <p>肥料をあげるだけではいけないのかもしれないね。</p> <p>他のミニトマトグループにも聞いてみよう。</p> <p>2. ふりかえりカードを書き、「ぐんぐんタイム」でしたいことを考える。</p> <p>4. 「ぐんぐんタイム」の活動をする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>予想される活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水をあげる。 ・ネットをかける。 ・支柱をたてる。 ・野菜を観察する。 ・図鑑で調べる。 ・野菜とおはなしをする。 など </div> <p>5. 本時の学習を全体で振り返り、次時の学習について話し合う。</p>	<p>○ 困っていることが解決できるように、同じ野菜のグループを編成し、少人数での比べ合い・伝え合い活動を設定する。</p> <p>○ グループの中で解決できない場合は、他のグループに聞きに行くように促す。</p> <p>○ ホワイトボードを使い、視覚的に比較・分類・関連付けが行えるようにする。また、比較、分類、関連付けがしやすいように、比べ合う場合に使いそうな言葉のカードを用意する。</p> <p>○ 自分や友達の活動や野菜の様子をわかりやすく伝えることができるように、タブレットやワークシートを使い、自分で撮影した写真や記録したカードを提示しながら伝え合うように促す。</p> <p>【思・判・表】自分の野菜の苗と関わる活動、友達の野菜と比べ、伝え合う活動を通して、よりよいお世話の仕方について考え、これからの栽培活動の見通しをもっている。</p> <p>○ 伝え合い活動が終わった後、子どもが自分の思いを整理し、表現できるように、3種類の振り返りカードを用意し、書く時間を設ける。 ※用意する振り返りカードは、♡・!・?カード。</p> <p>○ 子どもが野菜と関わり合いながら自由に活動することができるように、「調査コーナー」「道具コーナー」「作業コーナー」を設定する。</p> <p>○ 活動できず、困っている場合は、支援表計画表を基に、教師と一緒に活動したり、進んで活動している児童と一緒に活動したりするようにする。</p> <p>○ 気づきを学級全体で共有することができるように、自分の活動や友達の野菜と比べてどうだったかを発表し、どうしてそう思ったか理由も伝える。</p> <p>○ 次時の学習についての見通しをもつことができるように、次時の学習でやってみたいことを伝え合うよう</p>
<p>今までは、肥料の量まで気にしていなかったけれど、野菜に合ったお世話の仕方を考えていきたい。</p> <p>水の量も大切なことがわかったよ。雨の日は、屋根の下に植木鉢を移動させてたいな。</p> <p>支柱の立て方にもいろいろあることがわかったよ。野菜がかなまれないように根にも気を付けたい。</p>   	